



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.180
2022.9.30

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 小島逞壯
TEL(053)463-0458
FAX(053)463-0458
編集(広報委員会)阿部行俊

2022年度 浜松ユネスコ協会 通常総会

5月21日(土) 於：ホテルコンコルド浜松

【会長挨拶】 人間の弛みない努力で守る平和

浜松ユネスコ協会会長 小島逞壯 氏

人類の危機は、ウイルスまたは核兵器だと思っていました。しかし、本当の危機は人間です。今、紛争を起こしている国家のリーダー。その残虐非道な侵略は非常に痛ましいものを感じます。

日本は1945年8月15日に終戦を迎えています。終戦前の8月6日に広島に原爆が投下されました。8月9日には長崎にも投下されました。その8月9日に旧ソ連は、日本に宣戦布告をしています。終戦の1週間前です。そして、北方四島は取られました。ある学者は、「もし、終戦が1カ月遅かったら、今、北海道はロシア領である。」と言っています。

歴史を学ぶことは、平和を守るために大切だということを痛感します。毎日、生々しいウクライナの情報が入ってきます。戦争の残虐性、そして平和の尊さを身に染みて感じます。

教育、科学、そして文化を通して、平和を創っていくというユネスコの精神は、今も真理であり不滅です。ユネスコ憲章の前文に、「平和を失わないために人類の知的及び精神的な連帯の上に築かなければならない。」と書かれています。やはり、人間の弛みない努力なしには、平和は守れないという意味だと思います。(要旨抜粋)



浜松市長 鈴木康友氏より メッセージ

浜松ユネスコ協会2022年度通常総会の開催をお祝い申し上げます。

さて、日頃からユネスコ精神に基づき自然保護や地球の宝物を守る活動を続けられる皆様方の御努力は、なみなみならぬものであり、本日までの御尽力に対しまして、敬意と感謝を申し上げます。コロナ禍のおり、なかなか通常の活動ができないと思いますが、感染予防をしながら、少しずつ活動を広げていかれますことを御期待申し上げます。

【来賓挨拶】

世界平和と科学技術

衆議院議員 塩谷 立氏

コロナ感染の問題は、初めての経験で対応が分からない中、2年半が過ぎようとしています。治療薬が完全にできるとインフルエンザのような扱いになると思いますが、もう一歩という状況です。

ウクライナ問題については、21世紀の時代にそのような戦争があっているのかという思いです。これ程、長期間に渡って続くとは予想をしませんでした。この侵攻が思い通りになったら、世界平和の秩序の崩壊です。

東アジアで有事になったとき、どうするかを考えなければいけません。国民の皆さんと軍事的保障や憲法問題を考える必要もあります。備えるにはどうしたらいいかは、政治の上で絶対に検討していかなければいけないことです。

時代がICT社会となってきています。学校では子供たちが一人一台のパソコンを使っての学習を進めています。新しい時代に必要なツールとして、パソコンを道具として使えるようになることは大事です。一方で人間関係、コミュニケーション、実体験なども大切です。これからの学校教育を含め、今後どのように進めていくかが課題です。

多くの子供たちは、自然体験を通して理系の面白さを感じます。しかし、文系の大学生が多く、理系が少ないのが現状です。子供のころの実体験で得た科学の楽しさは、受験で摘まれていると感じます。大学の理系定員を多くし、「知能で世界と戦う」ために、正しい科学技術の在り方を見付けて対応することが大切です。

浜松ユネスコ協会の活動に対して、私ができることは協力していきたいと思っています。今後の活動を盛り上げて続けてほしいと願っています。（要旨抜粋）

決議事項

- 第1号議案 2021年度 事業報告 収支決算報告 監査報告
- 第2号議案 賛助会員の承認
- 第3号議案 規約改正（役員として「渉外」を規定）
- 第4号議案 役員の選任 渉外：金子容子氏、下鶴志美氏
- 第5号議案 2022年度 事業計画 収支予算

別紙「総会資料」参照



座長 岡本 肇氏

内科・消化器科

西脇病院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

2022年度 科学教室

新型コロナウイルス感染予防対策として、定員を例年より少ない60名で準備を行いました。コロナ禍での募集でしたが、市内46校から130名もの応募がありました。厳正な抽選により60名を決定しました。しかし、教育委員会の行動基準がレベル2であるため、関係所管と協議をした結果、第1回「開講式」（4月29日）を中止、第2回「昆虫と植物」（5月14日）を延期としました。

☆☆☆ 科学教室 スタート ☆☆☆

第2回「昆虫と植物」&第3回「水と生命」 ギュッと詰めて同時開催

6月18日(土) 於：浜松科学館

～ 命をつなげる知恵とたくましさ ～

まず、浜松市が天然記念物に指定しているギフチョウの生態についての講義を聞きました。ギフチョウが生きていける場所は、食草のカンアオイや吸蜜のためのカタクリの花が保全されている必要があります。その他のチョウについても、「食草との関係」「様々な産卵の仕方」などが紹介されました。子供たちは、次々と紹介される話を聞きながら映像を食い入るように見つめていました。その後、グループごとに3コーナーを順に回って活動しました。



①〈水と生命〉ゲンジボタル

真っ暗な中で、黄色く発光するホタルの様子に感嘆の声があがりました。オスとメスの発光器の違いや地域によって異なる点滅速度の話を知りました。こんな小さなホタルが懸命に発光するのは、次の命を残すためです。街灯や自動販売機、自動車のライトなど、人が必要とする光。その中で命をつなげるホタル。環境について考えることも多かったと思います。

②〈昆虫と植物〉チョウの卵・幼虫・成虫

多くの種類のチョウの「卵・幼虫・成虫」を観察しました。モンシロチョウやアゲハチョウの幼虫は、緑色でイモムシ型をしています。スミナガシの幼虫は、天敵に見つからないように、葉片をカーテンのようにつるし、自分は葉脈のようにじっとしています。また、ブラックライトをモンシロチョウの雌雄の翅に当て、モンシロチョウの目になったつもりで雌雄を見分けることに挑戦しました。

③〈水と生命〉微生物

顕微鏡を操作して微生物を観察しました。ミドリムシ、ミカヅキモ、ゾウリムシ、アメーバなど、細かく精密な体のつくりや動き回る素早さを実感できました。

理科の授業で学んだメダカは、小さくてかわいいと思ったけれども、そのメダカの口よりもさらに小さな微生物の命が、メダカの命を支えていることを気付きました。

(鳥井みのり)



科学教室スタッフ

第4回(第2回)ユネスコ科学教室 化学の世界 身の回りの「化学」

9月3日(土) 於：浜松科学館

コロナ禍において、科学教室の内容や方法の見直しが必要になりました。そこで、今年から新しい試みとして「身の回りの化学」をテーマにした講座を実施しました。

前半 「元素」について学ぶ



子供たちは元素周期表を見ながら、「元素は全部で118種類」「原子番号が大きくなるほど大きく重い原子」「金属の元素が多い」などを知りました。これらの元素を作り出すには、1000万℃という高温の状態が必要です。地球の自然界で作ることはできません。元素は、ビッグバンや恒星内部、超新星爆発によって生まれているのです。地球も太陽が生まれたときに生まれたものです。46億年経っても、元素の構成にほとんど変化はありません。地球の金の埋蔵量はプール4杯分であると言われ、資源には限りがあることが分かります。また、私たちの体も、こうした地球が誕生する前の宇宙でできたものであることが分かります。鉄より重い元素は超新星爆発で作られるため、私たちの体の中にも、超新星爆発によってできた元素が含まれています。私たちはまさに星の子であることに驚くと共に、不思議な感覚になります。

後半 3つの実験

①「水と油」

家庭用食用油に色水を垂らすと、ぷるぷるした玉が油の下に溜まっていきます。しかし混ざることはありません。割り箸を使ってかき混ぜても、細くなるだけです。そこに台所用の中性洗剤を入れてかき混ぜると、水と油を混ぜることができ、子供たちは「乳化」を学びました。



印刷のエキスパート
株式会社開明堂
 TEL (053) 471-6231 (代) FAX 473-0778

遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

②「電池の不思議」

10円玉3枚と1円玉3枚を交互にし、間に食塩水で湿らせたキッチンペーパーを挟んで重ねます。そこに電子オルゴールからの導線をつなぐと…見事に音楽が流れ始めました。子供たちは「イオン」を学びました。

③「酸・アルカリ性の洗剤」

トイレ用の酸性洗剤に10円玉を入れたり、卵の殻を入れたりしました。泡が発生する様子から化学反応について学びました。また、酸性の洗剤とアルカリ性の塩素系洗剤をなぜ混ぜてはいけないかなども知ることができました。

今回の科学教室では「身の回り」を意識して学習を計画しました。身の回りの物からスタートしていますが、すべてのものは宇宙であるというところに魅力を感じます。子供たちにとって、化学の目でものを見るよい機会になりました。（石塚稚人）



2022年度 第1回 春の親子公園探検隊

参加者41名（14家族）

—— 親子で自然に浸る ——

5月21日(土) 於：佐鳴湖公園

時折小雨が降る中でしたが、多くの参加者が集まり、この自然観察会を楽しみにしていた人たちの期待を感じました。

天気が悪く、昆虫はあまり見られないのではないかと心配しましたが、時折のぞく晴れ間には、モンキアゲハやナミアゲハ等の蝶も姿を見せ、ナナフシモドキやアオスジアゲハの幼虫に加え、今回、初めてルリタテハの幼虫も数カ所で観察することができました。



池の周りでは、コシアキトンボがちょうどヤゴから羽化しているのを見付けました。子供たちは、「こんな小さなヤゴからトンボは生まれるんだね。」「すごい！トンボの羽化を初めて見た。」と興奮した声をあげていました。大人も子供も、息を凝らして羽が広がっていくトンボの姿をずっと見つめていました。コシアキトンボは、全身が黒色で、腹部の白い部分が空いているように見えるため、この名前が付けられました。メスと未成熟のトンボは黄色です。特に、生まれたたのコシアキトンボの胴体は、驚くほど鮮やかな黄色です、この鮮やかな色にも大きな感動がありました。

例年、初夏の観察会は6月に開催していましたが、今年、時期を早めて実施したことで、今までの観察会では見られなかったトンボの羽化やルリタテハの幼虫などを見ることができました。主催者の私たちにとっても大きな喜びとなりました。また、晴天でなくても感動的な観察会が実施できたことで、観察会の可能性を広げることができたと感じました。（袴田正義）



第2回 夏の親子公園探検隊

—— 子供の目で宝探し ——

7月23日(土) 於：佐鳴湖公園

「なんか赤い虫がいるよ！」
静岡県内で最も標高が低い山、根川山の山頂で休憩していると、一人の女の子が声をあげました。タブノキの葉の上に、鮮やかな赤色をしたカミキリムシがちょこんと乗っています。調べると、ホシベニカミキリという名前でした。確かにその名の通り、黒い斑点が星のように背中に散りばめられています。



その後も、コナラの木で樹液を吸うノコギリクワガタ、大雨でできた水たまりの上を飛ぶギンヤンマ、池の隅に集まるヒキガエルのオタマジャクシなど、子供は大人よりもはやく、生き物を見付けます。大人のスタッフが下見を行ったときにはなかなか見つからなかった生き物を、子供ははいつも簡単に見つけてしまうのです。この経験は今回に限りません。いつもそうなのです。

なぜなのだろうと私なりに考えてみました。一つは身長が低く地面と近いから。もう一つは、子供は常に宝探しをしながら生きているからだと考えました。そう考える証拠は、観察会の終わりの会にあります。見付けたものについて紹介する時間にあります。アブラゼミ、ウスバキトンボなど、何の変哲もないありふれた昆虫を子どもは意気揚々と紹介するのです。まさに、自分にとっての宝物かのように。子供は普段から宝物を見付けようと躍起になっているのです。

大人では当たり前の風景でも、子供にとっては新鮮そのものなのでしょう。忙しく時間に追われる日々ですが、「時には子供の目をもって、のんびりと自然と関われば、新しい発見がありそうだ。」そんな思いでいっぱいになりました。(藤崎 徹)



あなたも一緒に
会員募集
 問い合わせ・申し込み
 事務局 三輪 宜弘
 ■ 053-425-8643

会員動向 会員数 (2022.9.17現在)

賛助	法人	維持	理事
30	1	4	39
普通	学生	合計	
34	0	108	



※再生紙を使用しています。